

天使学園創立 70 周年式典を迎えて

創立 70 周年記念事業実行委員長 常務理事 小川 泰

天使大学は、2017年12月8日にホテル札幌ガーデンパレスにおいて創立70周年記念式典を挙行し、来賓・同窓生等関係者約300人の出席のもとに、これまでの歴史を振り返り、新たな時代への出発と発展を誓いました。

本学のルーツは、1908年(明治41年)、マリアの宣教者フランシスコ修道会の修道女7人が、北海道開拓時代であった札幌に派遣され、施療所(現・天使病院)を開設して貧しい人々に医療を施したことに始まります。1935年(昭和10年)、当時の教皇ピオ11世が、ヨーロッパで高度な看護教育が高い成果をあげたことを賞賛し、修道女たちに高度な技術を持った看護婦(当時)の養成に力を入れることを勧められました。これを受けた修道会は、

これに応じて、1947年(昭和22年)、本学の前身である天使厚生専門学校を設立しました。その後の経過等は前号に詳記されていますが、短期大学を経て2000年(平成12年)に大学に改組し、今では看護・栄養の2学科を持つ看護栄養学部、同大学院研究科、ならびに我が国唯一の助産分野の専門職大学院である助産研究科を置くカトリック系の保健医療系大学(収容定員818人)に発展して参りました。

記念式典は、上智大学グリーンケア研究所特任所長Sr.高木慶子氏による「美しい人間像を求めて」と題する記念講演に始まり、カトリック札幌教区長勝谷太治司教と司祭団による「みことばの祭儀」をとおして神に感謝を捧げました。近藤理事長の式辞のあと文部科学省高等教育局私学部長 村田善則様(代理 同部私学行政課長補佐 永田昭浩様)と学校法人藤学園理事長 永田淑子様による祝辞が述べられ、同窓会及び後援会による寄附金の贈呈が行われました。続いて行われた記念祝賀会では、前札幌教区長 地主敏夫司教、日本私立大学協会北海道支部



武蔵学長の挨拶

長 森本正夫様をはじめ多くの来賓から温かいエールが送られました。

祝賀会において学園の創立当時から70年にわたる映像の上映と、記念事業の一つである大学キャンパス再開発事業の概要が披露され、また、学園創立期に学んだ卒業生の悲喜こもごもの思い出話に会場が沸き、最後に学生合唱団による素晴らしいハレルヤコーラスとユーモアたっぷりの武蔵学長の謝辞で幕を閉じました。

来賓・支援者等参加者から、素晴らしい式典で感激したとか、天使大学の素顔を知るよい機会となったなどと大変うれしい感想が寄せられました。



勝谷司教による70周年記念式典の様子



近藤理事長の挨拶

70周年記念講演会

学校法人天使学園創立70周年記念講演会に寄せて

天使大学総務課長 白石 澄枝

日本のグリーフケアの第一人者でいらっしゃる上智大学グリーフケア研究所特任所長シスター高木慶子様をお招きして学校法人天使学園創立70周年記念講演会を開催いたしました。

70年の歩みを振り返りながら、そして、これからも歩み続ける私たち天使学園に集う一人一人の心に響くお言葉の数々に、時間の経つのも忘れるほどでございました。

林芙美子の「花のいのちは短くて苦しいことのみ多かりき」と書いているが人生は苦難の連続である。自分を娘と呼んで親交の深かった日野原重明先生も人間は生きている限り苦しみもあり、不安もあり、そして死は怖いとおっしゃっていた。美智子皇后様の著書「橋をかける」にも紹介された、新美南吉の『でんでんむしのかなしみ』からは、すべての人々は悲しみや苦しみを抱えている、しかし、乗り越える力も必ず持っている。また、真珠を例えて、真珠は痛める（異物）貝に宿る、異物とは人間にとっては辛さや悲しみである、真珠のように、どこから見ても丸い白い美しい人間になりたいと誰もが思っている。しかし、真珠の色は白くても1個1個違う。苦しみがあるから人間は美しい人になれる。また、女性の生き方として、娘、嫁、姑「3つのメ」を上手に生きることが真の幸福にいたる、また自分の感情から出ること、自分から折れること、仕え合うことが競

争社会の中での女性の使命であること等、グリーフケアのお立場から心に響く数々のメッセージをいただきました。

講演の最後には、清らかな歌声で次の

曲が会場全体を包みました。You raise me up あなたが励ましてくれるから私は強くなれるの、You raise me up あなたが励ましてくれるから私以上の私になれる。これからも天使学園に集う一人一人が、共に支え合い、共に助け合い、そして愛と感謝の心を持ち続けていくことが、天使学園の未来に繋がる道であると感じました。「美しい人間像を求めて」この演題に込められたシスター高木先生の思いは、「天使学園は、いつも、そして、これからも、澄みきった心であってほしいと思うからです」と伺いました。

70年の長きに亘って、脈々と受け継がれてきたキリスト教精神に基づく建学の精神「愛をとおして真理へ」そのものであると感じた講演でした。



70周年記念の合唱を終えて

栄養学科2年 南 夢乃

私は、2017年12月8日に行われた創立70周年記念式典と記念祝賀会に、合唱団の一員として参加しました。合唱団の団員は、看護学科、栄養学科の中から学年を問わず、有志32名が集まりました。私は、その中で伴奏者とリーダーを務めました。

各々の多忙なスケジュールの合間をぬって毎週毎週練習を重ねてきました。当日は、その成果を発揮し、会場内の大きな拍手で合唱を終えることができました。

この大成功は、指導してくださった鷹木真理子先生をはじめとして、多くの方々からの暖かいサポートと協力、また団員の心強いやる気と優しさのおかげです。私は、このような恵まれた環境の中で、

伴奏者とリーダーをすることができて、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

私自身、伝統のある天使大学の一学生として合唱団に参加できたことを誇りに思います。

これからも、このような貴重な体験をいかして、天使大学の誇りを胸に日々勉学に努めていきたいと思っています。



海外で働く助産研究科修了生

やりたいと思えば、
必ずチャンスは訪れます。



母も祖母も助産師で、私は医療職で海外へ行きたいという気持ちもあり、自然に助産師を目指していました。修了後は、とにかくハイリスク助産に携わりたくて、産科救急のあ大阪の病院に勤務しました。仕事に追われて6年

が経ち、「やりたいことをやり残してはいけない」と考えていた矢先、青年海外協力隊の広告を見かけ、すぐに応募しました。2014年10月から2年間の任期で、西アフリカのベナン共和国に派遣されました。

しかし悔しかったのは、専門的な医療行為やケアができなかったことです。

お産をとり、産科救急で培った技術を発揮したくても、規定で注射さえ打てない

ことを現地の仲間にもわかってもらえず、私のフランス語も未熟なため、信頼を得るのが大変でした。



ただ、日本では輸液ポンプもモニターもエコーもそろっているからできた部分があって、何もない町では心音の確認ばかりしていましたから、自分の力も足りていなかったと思います。近隣の村にも足を運び、感染病予防の啓発や妊婦健診を手伝ったり、子どもの傷を見たり、できること



2009年3月 天使大学大学院助産研究科助産研究分野修了
2009年4月～ 大阪府立母子保健総合医療センター勤務
2014年10月～ 青年海外協力隊員として、西アフリカ「ベナン共和国」へ派遣
2年間の協力隊員生活後は、アフリカの妊婦・子供達の支援のために活動
杉山 結里

に取り組みました。
ある村に新しい
井戸を設置し、子ども
の学習を支援する
ための資金を集
めるプロジェクトは、
帰国後も続けてい
ます。



お産をその国の文化として考え、広い視野で捉える科目「出産の文化」「女性のフィジカルイグザミネーション」を学んでいたことは、対象の理解にすごく役立ちました。

助産師という仕事は、出産でお母さんが素を見せ、本性や思いがむき出しになる姿に寄り添えるところが醍醐味だと思います。

今は現場が楽しいです。お母さんが赤ちゃんを産んだ瞬間、別人のように母性があふれる、あの感じがすごいですし、いい瞬間だと思います。

今後は、マラリアや感染症について専門的に勉強するため、長崎



大学熱帯医学研究所で3ヵ月間、熱帯医学研修課程を受講します。そして再びアフリカで医療に従事したいと考えています。

つれづれ考

本学教職員による
リレーコラム(第十一回)

難化する国家試験

看護学科 准教授 伊藤 治幸

天使大学に赴任して3年目が過ぎようとしています。今回は、看護師国家試験について紹介させて頂きたいと思います。前任の大学から数えて10年以上国家試験の担当を通して感じることは、「年々問題が難しくなっているな」ということです。最近5年間の合格率の推移(東京アカデミー)をみると第102回の合格率が88.8%、第106回(昨年)が88.5%でした。一方で、合格基準得点をみてみると第102回~105回の「一般・状況設定問題」の得点は151~160点であるのに対し、昨年行われた第106回試験は142点であり102回の最低合格点160点と比較して18点もボーダーラインが下がっています。看護師国家試験対策をしている予備校の分析によると、合格率は88~90%前後で推移しており、厚生労働省が看護師の需給バランスを考慮して合格最低ラインを設定してい

ることを示唆しています。また、受験者数の増加に比例して不合格者数は増加しますが合格率は88%前後で推移するため、模試を受験した際には常に上位75%以内にいることが確実な合格への近道となります。そのため、合格点のボーダーラインの推移に関わらず確実に得点を取っていくことが必要となります。

具体的な難化の例を示すと、①単問の長文症例問題、②5肢2択問題の増加、③事例問題の長文化と問題の意図を素早く読み取る力が求められたこと、④疾病の成り立ちと回復の促進に関する問題が増加したことがあります。下位学年から国家試験の準備する上では、新しく何か勉強を始めるということではなく普段の授業を大切に基本を確実に理解することが重要です。また、臨地実習は、疾患理解、治療方法(薬物含む)、看護ケア、福祉的視点など幅広い視野で対象を理解することができるため有効に学習してほしいと思います。

4年次になってから国家試験の勉強を開始するのではなく、1年次から国家試験を見据えて準備しておくことが大切になります。光陰矢のごとです。

学生の活躍

箏曲部

看護学科3年 笠井めぐみ

箏曲部は現在9名で活動しています。毎週木曜日、お箏の先生にお越しいただき、練習に励んでいます。年間の発表の場として、4月にイースターの集い、5月に同窓会、6月に学校祭、8月には教育文化会館で行われている現代邦楽コンサート、12月にクリスマスの集い、3月に天使病院癒しのコンサートなどがあります。学内学外問わず、演奏の機会を多くいただいています。病院で行ったコンサートでは、私たちの演奏に合わせて、歌を歌っていただける場面もあり、とても喜んでいただくことができました。私たちの演奏が、誰かの役に立っているかもしれないと思えた瞬間、とてもやりがいを感じることができます。

部員のほとんどは、大学に入ってからお箏をはじめました。お箏には、お堅く、難しそうなイメージを持っている方もいらっしゃると思いますが、気軽にはじめることができます。練習は他学科・他学年の人たちと交流できる場でもあり、互いに教え合いながら、日々楽しく活動しています。曲も、箏の伝統的な曲から、ジブリなど私たちの身近な曲まで、幅広く演奏しています。

箏はとても美しく、心癒される音色を出す楽器です。これからも、日本の伝統楽器である箏の魅力をより多くの方々に感じていただけるよう、日々練習し、演奏の場を広げていきたいと思っています。少しでも興味を持った方、私たちと一緒に箏を弾きませんか？



天使病院癒しのコンサート



クリスマスの集いで発表

フィリピン支援サークル PEC

看護学科3年 黒田 彩芽

PECは、主に大学祭で活動しています。大学祭では、スタディーツアー時、実際にフィリピンで購入したドライマンゴーやバナナチップス、貝殻のアクセサリやポーチなどを販売し、その収益をPECが支援しているフィリピンの奨学生の1年間の学費にあてています。販売ブースで同時に行っている募金も全て寄付しています。また、いらなくなった文房具、おもちゃ、タオルなどの日用品、小さくて着なくなったTシャツなどを回収し、支援物資として現地の幼稚園や施設に寄付しています。

PEC部員有志で春休みと夏休みに行くフィリピンスタディーツアーに毎回参加しています。ツアーでの主な活動は、マザーテレサ施設「栄養失調児の家」や、同じくマザーテレサ施設の「死を待つ人の家」訪問をして洗濯のお手伝い、昼食調理、昼食配膳をすること。現地学生と交流して、ペットボトルやビン、カンのリサイクル活動。ストリートチルドレンへの配食支援でルガオというおかゆのようなものやビーフを現地の学生と共にしています。この他にもダンピングサイトというゴミ山の中で暮らしている地域に訪問して実際に住んでいる方と話したり、PT・OTセンターというリハビリが必要な子供たちのための施設に訪問して、リハビリを頑張っている子どもたちやお母さん、理学療法士の方と話し、フィリピンの医療や現状について学んでいます。



スタディーツアー1



スタディーツアー2

たべてるの主な活動

栄養学科3年 湯浅 那月

私たちは、夏季休暇を利用し東日本大震災のボランティア活動を行いました。移動日を除き、4日間の行程でした。

震災で最も被害の大きかった岩手県陸前高田市の街に初めて行き、その場所にいるだけで、6年前の震災に想いを巡らせることができました。最初に街の状況を見た時、メンバーのほとんどは、思っていたよりも復興が進んでいないという印象を持ちました。しかし、ボランティアを通して地元の人や、他のボランティアの方のお話を聞くうちに、たくさんの人が復興に携わっていると知りました。6年間でここまで復興していることはすごいことだと気づかされました。

現地に、行くからこそ、分かることがあります。東北で出会った温かい人たちにまた、会いに行きたいです。

また10月下旬、私たちは今金町へ行ってきました。

7月に行われたフェアトレードフェスタで出会った曾我井さんにお話になり、無農薬の農業について学ばせていただきました。



トマト畑の見学

畑で育てられている野菜はどれも大きくしっかりとしていました。実際にトマトを頂いたのですが、とても甘く、おいしかったです。農業を使わなくてもおいしい野菜を作ることができると、身を以て体験することができました。またこの二日間で、豚、羊、牛など多くの動物たちとふれあいました。

普段私たちが何気なく食べている乳製品や肉類も、そこには農家さんの努力の日々や、いのちがこもっているということを改めて感じました。

これからもたべてるの活動を通して、多くの農家さんと関わり、学んでいけたらと思います。

スカッシュラケット部

栄養学科3年 清水 花純

こんにちは。スカッシュラケット部です。

スカッシュ、と聞いてどんなスポーツかわかる人は少ないかもしれません。スカッシュとは、四面を壁に囲まれたコートの中で、二人で交互にボールを打ち合うスポーツです。ラリーが続いたら、ボールはあちこちに飛び、面白く奥の深いスポーツなので、とても楽しいです。まだまだマイナースポーツですが、オリンピックの新種目の候補に挙げられたり(落選しましたが…)、ドラマでは福山〇治さんや菜〇緒さんがプレーしていたり(気になる人は調べてみてください!)、少しずつ話題になっている今注目のスポーツです。

練習は週に一度天使の学生のみの練習を行っており、他大学の先輩にコーチをお願いして練習を見てもらっています。部員一同和気あいあいと活動しています。練習日以外でも、平日の昼間はいつでも自由に練習施設を利用できるので、他大学の学生たちと一緒に練習をして交流を深めることができます。

また、いろいろな大会にも参加しています。昨年はインカレ個人戦の出場が3名、そのうちの1年生がインカレ新人ベスト8という成績でした。

大学は授業が忙しく、実習などあって大変な時もありますが、そんなときスカッシュはとてもいい気分転換になります。



練習前の1コマ

学生の活躍

オーガニック リヤン 学生団体 Organic lien (学外サークル)

栄養学科2年 齊藤 紗輝

オーガニックを通して、主に若い世代に食の楽しさや、大切さを伝えることを目的として活動している学生団体Organic lien(オーガニックリヤン)です。現在メンバーは、天使大学や北海道大学、酪農大学の学生といった計7名で活動しています。拠点は札幌で、開催イベントでは学生という枠を超え、社会人との関わりも数多くあります。

2017年2月に設立してから、札幌で活動する「発酵大学」とコラボした「有機米麹で塩麹を作ろう」や、フレンチシェフと有機野菜を扱う八百屋さんと共に「オーガニックフレンチ料理教室」を、学生でも気軽に参加できる価格で実施しました。また、食の大切さを伝えるイベント等で依頼



旭川での発表1

を受け、協力運営なども行っています。

昨年11月には旭川で開催された「ほんものビレッジ」というイベントに参加し、現在進行中のプロジェクトである、「媒体プロジェクト」と「食卓プロジェクト」について紹介してきました。食に関する映

画や講演会といった媒体を通して、自分たちの知らない現実や課題を知ることによって食への興味を持ってもらい、そこからさらに有機農家さんや、食・自然サークルと共にテーブルを囲むことで、食の楽しさや大切さを実際に体感してもらいました。



旭川での発表2

この二つのプロジェクトを中心に、今後はさらに多くの学生を巻き込み、活動の幅を広げていきたいと考えています。団体名にあるlien(フランス語で「繋がり」)にもあるように、私たちはイベントを通して生まれる一つひとつの出会いと、共有するからこそ生まれる循環を大切にしています。つまり、「ほんもの」とは、誰かに伝えたいものなのです。

そんな、当たり前のようにそうでないことを、私たちは「オーガニック」を通して伝えていきたいと考えています。

便利なモノで溢れる今の時代だからこそ、自分たちのような今後親となる世代が、食に関する正しい基準と選択権を持つことが次世代の子どもたちへとつながると考えています。

地域連携・産学連携

1. コープさっぽろの健康企画に参加しました。

4月18日(火)に栄養学科4年次生4名がコープさっぽろの健康企画『からだに美味しいごはん』を通して、マンション「パシフィック星置ヒルズ」の集会所で食と栄養について発表を行いました。



2. 食べる・たいせつ フェスティバルに参加しました。

8月26日(土)にコープさっぽろ主催の食育イベント「食べる・たいせつ フェスティバル2017」がスポーツ交流施設「つどいむ」で開催され、栄養学科の教員と学生がブースを出展しました。



3. 牛乳でいきいき認知機能セミナーに参加し発表を行いました。

10月15日(日)と10月29日(日)に旭川と札幌で開催された「牛乳でいきいき認知機能セミナー」に牛乳サークル「ミルクラ」の学生が参加し、ミルクラの活動やミルクランド北海道とコラボレーションして作成した「ミルクラ牛乳レシピブック」について、スライドを使いながら紹介を行いました。



当日は「ミルクラ牛乳レシピブックvol.2」の中から「ミルクソースのロコモコ丼」と「ミルクみそ汁」の実食も行われました。

4. サッポロさとらんどで開催された「新米フェア」に参加しました。

2017年10月21日(土)、22日(日)にサッポロさとらんどで開催された「新米フェア」に栄養学科3、4年次生が参加しました。これは教職課程の授業の一環として行われたもので、栄養教諭を目指す学生たちが参加しました。



5. ひがしく健康・スポーツまつりに参加しました。

10月22日(日)に東区つどいむで行われた「ひがしく健康・スポーツまつり2017」(主催:東区連合町内会連絡協議会、東区役所、さっぽろ健康スポーツ財団)に本学学生が参加しました。



このイベントは、本学を含む東区内の大学等の教育機関が「地域連携協定事業」の一環として協力し、今年で3回目となりました。

本学は今年も「天使大の健康塾ー食事バランスチェック&血圧測定ー」と「食育フェア」を担当しました。

6. 広報さっぽろ(東区版)に掲載されました。

「広報さっぽろ(東区版)」2017年11月号に、栄養学科2年次生の秋山幹仁さんが考案した札幌市東区名産の「タマネギ」と「こまつな」を使ったレシピが掲載されました。



7. コープさっぽろとのコラボ弁当を発売しました。

11月3日(金)、牛乳サークル「ミルクラ」とコープさっぽろが共同開発した「ミルクソースのロコモコ丼」が販売されました。販売当日は、用意されたお弁当が午前で完売するほど好評でした。

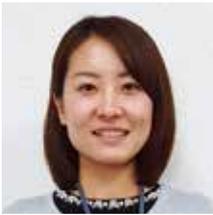


8. 平成29年度札幌市「お弁当レシピコンテスト」本学学生が受賞しました。

平成29年度札幌市お弁当プロジェクト「お弁当レシピコンテスト」一般の部で、栄養学科1年次生の原田来未さんが特別賞(札幌市中央卸売市場青果部運営協議会会長賞)を1年次生の吉川雅代さんが特別賞(株式会社北海道日本ハムファイターズ賞)をそれぞれ受賞しました。



活躍する卒業生



『天使らしさ』を忘れずに

2009年3月 天使大学看護栄養学部看護学科卒業
 2009年4月～2013年3月 浜中町役場 保健師
 2015年3月 天使大学大学院看護学専攻修士課程 公衆衛生看護学コース修了
 2015年4月～厚真町役場 保健師(町民福祉課健康推進グループ主任)

内村 彩華

私は、大学院修了後の2015年4月から、厚真町の保健師として働いています。厚真町は、人口約5,000人の農業を主産業とする町です。住民の顔が見える人口規模で、目標とする先輩保健師がいる環境で働きたいという思いがあり、大学の先生の薦めで、厚真町を志望しました。

現在の主な業務は、家庭訪問や健診、保健指導などです。病院や施設とは異なり、地域で生活する方を対象としているため、その方・その家族の価値観や生き方を尊重しながら必要な支援を行うことや、多職種との連携に難しさを感じる場合があります。しかし、小さい町だからこそ密に住民と関わることができ、支援した方の前向きな変化を感じたときや、「自分の担当は内村さん」と担当地区の方に言ってもらえたときなどは、とても嬉しくやがいが感じます。



3歳児健康診査

天使大学では、看護職を志す者として、技術だけでなく、心(内面)を磨くことができましたと感じています。教職員の皆様の熱い思いを感じながら、ミサなどを通して自分を内省する時間が与えられ、様々な行事を通してコミュニケーション力を高められた

ことは、現在の私の保健師活動の基礎になっていると感じています。また、大学院では、保健師としての専門性について見つめ直し、自分の考えに根拠を持って発信する力や、広い視野で物事を捉える力など、実践力を伸ばすことができたと感じています。

大学を卒業して9年経ちますが、新たな挑戦をしている同期も多くおり、いつも刺激をもらっています。“強く、優しく、人の気持ちを考えられる”それが「天使らしさ」ではないかと思います。私も、「天使らしさ」を忘れずに、住民との関係性を大切にしながら、専門性を活かした支援ができる保健師を目指したいと思います。そして、いつか機会が与えられるのであれば、看護教育にも携わりたいです。

1日の平均的なスケジュール

【時間】	【業務内容】
8:30	出勤
9:00	事務仕事(事業の企画・準備・評価、訪問準備、関係機関との打ち合わせなど)
12:00	休憩
13:00	外勤(家庭訪問など)、記録
18:00	退勤



「人の気持ちに寄り添うという看護の原点」を学びました。

2007年3月 天使大学看護栄養学部看護学科卒業
 2007年4月～市立札幌病院
 2015年3月 天使大学大学院看護学専攻修士課程ホスピス・緩和ケア看護学コース修了
 2015年4月～大阪国際がんセンター がん看護専門看護師

渡辺(旧姓:小橋) 一代

私は、結婚のため関西で就職することを決めていました。大阪国際がんセンターはがん看護専門看護師が多数在籍しているため、先輩看護師からご指導を受けながら、自己啓発ができると感じ、就職いたしました。

現在の主な業務は、病棟スタッフであるため、日常看護業務や患者・家族のケアを行っています。特に、他の病棟看護師が対応できない複雑で解決困難な看護問題を持つ患者や家族に対して質の高い看護ケアを提供するために積極的に関わり、病棟看護師がケアできるようにサポートしています。病院全体の看護師に向けて講義や看護研究の指導もしています。



受け持ち患者さんと

当院は、がんの専門病院であるため、他の病院で治療が困難と判断された患者や希少がん患者などが当センターを選択されることが多くあります。経験のない疾患や病状の患者との関わりには難しさを感じていますが、他スタッフと協働しながら患者・家族の希望を叶えられたときはやがいが感じます。

天使大学では、人の気持

ちに寄り添うという看護の原点を教えていただいたと思っています。特に、実習では「理論」と「実践」を統合し、看護の実践力を高めることができたと思います。

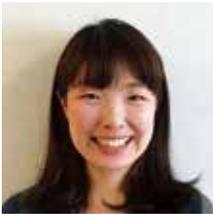
今後も目標としては、がん看護専門看護師になってまだ日が浅いので、自己啓発に取り組みながら、まずは病院全体の看護の質の向上に努めたいと思っています。

現在は、がん看護専門看護師という資格をもっていることで、活動の場も広がり、様々なことに挑戦させていただけるようになり、患者や家族をはじめ、看護師や医師からの信頼も厚くなりました。天使大学や大学院での学びに感謝しています。

1日の平均的なスケジュール

【時間】	【業務内容】
8:30	出勤、情報収集
9:00	病棟看護業務 ・重症患者へのケア ・抗がん剤治療
12:15	休憩
13:00	病棟看護業務 カンファレンス
15:00	看護研究委員会 ・研究に取り組む看護師への指導、相談
17:30	退勤

天使大学では、大学院で更に学びを深めることができます。看護学専攻では、実践型コースで保健師とがん看護専門看護師の養成を行い、修士論文コースでは、公衆衛生看護学、精神看護学、成人看護学を学ぶことができます。



おいしく、たのしく、マナーよく!

2011年3月 天使大学看護栄養学部栄養学科卒業
2011年4月～ 池田町立池田中学校 兼 池田町学校給食センター栄養教諭
2015年4月～ 函館市立昭和小学校 栄養教諭

宮川(旧姓:神林) 文子

栄養教諭として働き7年が経とうとしています。

私は当初、「食」を通して人を助けられることができる病院の管理栄養士になりたいと思いきや天使大学を志望しました。入学後、「時代は資格だ」という親の助言で、履修科目の多い栄養教諭教職課程を選択し、勉学を進める中で未来ある子どもの食事を作ることに魅力を感じて現在に至っています。

栄養教諭の業務は、主に学校給食管理と食に関する指導の2つです。しかし、この2つの業務の両立は、そう簡単ではありません。学校給食管理では、調理員との連携をはじめ、施設にあった衛生管理や作業工程を考えた上での献立作成が必要です。一方、食に関する指導では、学級担任と連携しながら児童の実態に合わせた継続した指導が求められます。

このように全く異なる2つの仕事を掛け持つことになるため、見通しを持ってバランスよく仕事を進行させることが大切になります。

最初に赴任した池田町では、栄養教諭の正規採用初年度ということで勤務体制が確立されておらず、町や学校も試行錯誤で、私自身誰にも頼ることができず大変苦労しました。それでも2年を経過する頃には、児童の給食センター見学を実施したり、地産地消の観点から特産品を使用した給食や飲食店と連携した給食を提供して地域活性化につながり、自分なりの工夫をして仕事にやりがいを見出せるようになりました。

働き始めて7年、私が常に心がけていることは、児童生徒と一緒に給食時間を過ごすことです。これは、食べる人をつくる人がつながり、心を通わせて一緒に食事をすることが、児童生徒の心身の成長にも大切であり、その一役を担っているのが栄養教諭であると感じているからです。おいしく、たのしく、マナーよく食事ができるように、給食ひとくちメモを配付しながら、子どもたちと直接向き合う食育活動を行っています。

最後に、私の大学生活は、「やるときはやる。楽しむときは楽しむ」といっ

たメリハリある4年間でした。山あり谷ありの社会人生活を送る今も、気分転換や励まし合いのできる友人に出会えたことが、天使大学で得た財産です。また、大学で学んだコミュニケーション力と感謝の心は、本当に大切なものだと実感しています。これからも、周囲の人々への感謝の気持ちを忘れずに、安全でおいしい給食を提供していきたいです。



食育指導の様子

1日の平均的なスケジュール

【時間】	【業務内容】
7:45	給食センター点検・食材検収
8:30	職員朝会
8:30	伝票・食数・作業指示書確認、献立作成・発注、調理場業務など
12:00	給食指導など
13:00	清掃指導など
14:00	献立記録、職員会議、その他事務
16:00	調理員とミーティング、施設点検など



失敗を恐れず常にチャレンジ!!

2005年3月 天使大学看護栄養学部栄養学科卒業
2005年4月～ (株)オーシャンシステム 食品衛生指導 その後総合病院、老人福祉施設の管理栄養士
2012年4月～ (株)FINC入社 マーケティング戦略本部 アドプランニング室 管理栄養士

藤原 有芳

私は、現在の企業に入社して6年目を迎えました。それまで私は、工場の衛生管理、委託給食、病院栄養士、老人施設栄養士を行っており、特に病院や老人施設で働くことにより、病気を抱える人や寝たきりの状態の人と触れ合う仕事をする中で違和感を感じるようになり、予防に関わる仕事に就きたいと思うようになり、入社しました。

入社当時は10人に満たない創業間もない企業でしたが、現在では約300人の会社に成長しました。

不健康な人、いわゆるダイエット難民の人などを救ってきたり、これからの人生を良いものに変えるお手伝い全般を行ってきました。

現在は、20代～30代の女性をターゲットにした社で作っているヘルスケアアプリにてダイエットや生活習慣改善のアドバイスを行いながら、大手企業とのタイアップ企画をつくっています。

アプリのユーザーが欲しい情報と企業の伝えたいことがフィットしなければ良い企画にならないため、どちらの立場にも立って企画する難しさがありますが、その分フィットした時の達成感ややりがいはひとしおです。

ベンチャー企業で型がないため、何でも自分でやらなければならない大変さはあるものの、逆を言えば何でも自分でできてしまう良さがあり、やりがいもありますが、その分責任も重大です。

大学時代、栄養価計算が手計算だったことは今でも後輩の栄養士の子に話したりします。その頃の苦労があったから今のパソコンでの作業に感謝ができます(笑)。

今後は、健康寿命を延ばして、いつまでも健康でいられる人が一人でも

多くなるよう、予防分野の先進企業の一員として頑張りたいです。

衛生管理や委託給食などでの経験は決して無駄ではなく、今でもどれも役に立っています。やりたいことはすぐにできないかもしれませんが、誰かのためになる仕事、自分にしかできない仕事を見つけるために在学中に色々な挑戦をしてください。



1日の平均的なスケジュール

【時間】	【業務内容】
9:00	出社、チームミーティング
11:00	企業往訪、打ち合わせ
13:00	ランチ
14:00	企画プランニング
17:00	企画ミーティング、雑務
18:00	退勤

天使大学では、栄養教諭1種免許状を取得できる教職課程があります。また、大学院栄養管理学専攻では、栄養教諭専修免許状の取得や博士後期課程もあり、学びを深めることができます。

三代続けて天使学園

イエス・キリストと出会う 信仰の恵みをいただいた。



祖母 栄養科10回生 倉(旧姓 高木)洋子
母 衛生看護科42回生 佐藤(旧姓 倉)魅智子
本人 看護学科15回生 佐藤 雅

Q1 なぜ天使を選んだのですか？

祖母 栄養士の勉強をするために、藤短大に進学を考えていましたが、看護科行く友人が天使短大に栄養科があることを教えてくれ、受験日も近かったため、受験慣れするために天使短大に出願しました。試験前日、両校の下見に行った時、藤短大はコンクリートの新校舎、天使短大は、自分の高校と同じ木造の校舎、しかも校舎の中のピカピカに磨かれた廊下はとても親しみやすく、ほっとして、いつしか友人達とここを本命にしたいと話合っていて、友人3人と合格し、とても喜びました。



PER CARITATEM
ADVERITATEM

母 マリアの宣教師フランシスコ修道会の修養会に高校時代より参加しており、教員であるシスター達と交流がありました。また、看護師になるなら、母の母校にという思いがありました。

本人 身近に天使出身が多かったことから、看護師になるには天使に行けば良いのだという考えが、小さいころから根付いていました。

看護師になりたい理由を思案する際に、自分の信仰と看護を関連させ、人間性を向上させながら学べる環境に魅力を感じました。

取り組んだ時間は、4年間で築き上げた団結力も感じ、かけがえのない思い出となっています。教職員の方からもたくさんの称賛の言葉をいただきました。



1990年頃

Q3 天使のどういう部分を残してほしいか

祖母 天使は、自分の人生の土台となる学びが出来た学校なので、大事に思っていますし、愛しています。長年、同窓会宗谷支部長も引き受けています。建学の理念にあるように「愛をとおして真理へ」を大事にしていきたいと考えています。イエス・キリストの生き方、カトリックの信仰を学ぶ場であってほしいと思います。シスターが学校内におられた時は、お話を聴く機会もありましたし、私は、宗教の時間にベネディクト富澤孝彦司教様の「アウグスチヌス」の講話を聴いて、導きをいただきました。これからもカトリック系の学校であることを土台に、人間教育の場であってほしいと思います。

母 天使はキリスト教の修道会が設立していますし、建学の精神にはカトリシズムがあります。この建学の精神から離れた考え方になってしまうと、他の大学と変わらなくなってしまいます。「愛をとおして真理へ」は学生だけではなく、先生方にも取り組んでいただきたい精神です。宗教とは、人々に人間らしく生きることを教える羅針盤と言われていて、個々の死生感にも影響を与えていると思います。どんな優れた知識を持っていても、根本にある考え方によって、患者と向き合う姿勢は変わっていきます。天使の先輩たちが築いてきた信頼は、この建学の精神で学んだことの実践の結果だと思います。今後も大切にしてほしいと思っています。

本人 人間愛の教育に重きを置いているところです。私は、4年次の統合看護臨床実習で受け持たせていただいた患者様から、「天使の学生さんは、話し方も丁寧で、皆さんとても優しいわね」という言葉をいただきました。患者様からこのような言葉をいただけたのは、愛を持って接するという人間愛の教育が徹底しているからだだと思います。看護職は患者様との信頼関係を構築していかなければなりません。実習の中で、患者様にどのように関わっていくことが患者様にとって良いのか、自分の関わり方は適切なかを考える機会を沢山いただきました。その中で、自分の考え、性格についても向き合うことの重要性を学びました。天使大学は看護学だけでなく、人としての教育にも力を入れている大学だと思います。人間愛について深く学び、建学の精神である「愛をとおして真理へ」の意味を各々が理解し次の代にも繋いでほしいです。



2000年頃

Q2 印象に残っているシスターや先生たち、エピソードなどはありますか？

祖母 シスター齋藤ハツエ(イマクラタ様)先生、シスター垣内和子(アドリアナ様)先生、川勝 勝先生、新田ゆき先生



1959年頃の校舎

天使祭の聖劇の役割でキリスト役にあたり、セリフを覚える際に、どのような場面で話された言葉なのか理解するため、聖書を読みました。この機会より、当時の看護科の寮でシスター齋藤ハツエ(イマクラタ様)先生が夕食後に行われていた「公教要理」の勉強会に参加しました。また、2年生の時の葦の会で会計をしていて、天使祭の時は忙しく、広告料を頂くために、葦の会会長と遠くの会社に出かけました。

母 シスター女鹿床子先生、シスター高木節子先生、シスター和田サヨ子先生、宮本裕子先生、前田博子先生、菅原邦子先生

天使祭の余興で戴帽式再現を行い、外崎洋子学長(当時)の役となりました。外崎学長を真似るために特徴的な歩き方とナースキャップを角隠しのように頭に載せる様子を演じました。

体育祭、合唱コンクールをクラス一丸となって取り組んだのが、良い思い出です。

本人 臺野美奈子先生、澤田優美先生

4年次の合唱コンクールが一番印象に残っています。4年次の実習は、5月に入ってすぐ始まるため、練習を3回しか行うことができませんでした。しかし、学年一丸となって最高の合唱を行いたいという思いで

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先 〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科
助産研究科(専門職学位課程)

第24号 2018年3月12日 発行 天使大学広報委員会

<http://www.tenshi.ac.jp>